

廣瀬川

廣瀬川白く流れたり
時さればみな幻想は消えゆかん。
われの生涯を釣らんとして
過去の日川邊に糸をたれしが
ああかの幸福は遠きにすぎさり
ちいさき魚は眼にもとまらず。

萩原朔太郎「郷土望景詩」より



前橋文学館 1F の風河と朔太郎像

心の郷愁 広瀬川

朔太郎のいる風景

明治から大正にかけて「坡宜亭」という名の茶店が、臨江閣となり前橋市中央児童遊園（るなばあく）の敷地内にあった。郷土の詩人萩原朔太郎も趣味のカメラを抱えてここをよく訪れ、自分の心の郷愁をシャッターに捉えている。
きつと、友人の室生犀星とここで「萩の餅」を食べながら創作の話に花を咲かせたのだろう。

そんな「坡宜亭」をめぐる物語を想像していると、今を生きる私たちにとって、前橋の持つ自然と街並みが生活を豊かにしているだけでなく、ゆったりとした時間のながれのなかに無限のロマンチックな思慕やせつない心の哀切を感じさせ、前橋に生まれ住んで良かったと改めて思わせる。

街の中心を逢つように流れる広瀬川はその象徴であり、朔太郎もここを愛し、語らいながら歩いた光景が目に浮かんでくる。

普段この広瀬川遊歩道には、買い物帰りの人や犬を散歩する人、子供連れの人、ジヨギングをしている人など様々なドラマが見え、さらに夜には交水堰のライトアップや朔太郎が憧れていたフランスの街にあるようなガス灯型の照明もお洒落な空間を醸し出している。

この魅力的な場所に、多くの市民はもとより、前橋を訪れた観光客にも、その匂い



朔太郎橋に明りを灯すガス灯型照明

や気配を肌で感じてもらいたいと、昨年、文学館内に広瀬川バル「風河」がオープンした。

前橋街づくり協議会が20年来提案し続けてきた「広瀬川テラス構想」を具現化した第一歩であり、これをきっかけに朔太郎の生

家移築や周辺再開発、遊歩道の緑化照明整備など新たな風が吹き始めている。

ワインを飲みながら、ゆっくりとお話をしながら前橋の文化や歴史、街並みを感じられる小さな「坡宜亭」のような空間の小さなワクワクが、中心市街地（前橋文学館・アーツ前橋・臨江閣・前橋公園・敷島公園・バラ園）へ前橋駅と回遊性が広がり、大きなワクワクへ広がることを期待したい。

広瀬川バル「風河」横森オーナーから一言

皆様から支えられながらの1年半でした。「風河」には、朔太郎の詩を求めて来られるお客様も多い。ぜひ、たくさんの方にこの広瀬川河畔の空気を体感していただきたい。そのためにも、いつまでも時間を楽しめる空間「風河」でありたいと思っています。

ISO14001認証取得 JQA-EM1999



前橋市問屋町1-10-7

TEL 027-251-5217

http://www.ootaya.co.jp



オフィスプランナーのオオタヤ

